

## 目 次

<b>序 章 市民立法とは</b> .....	1
1 市民とは（定義） .....	2
政治学研究のなかで    近年の動向	
2 市民立法に係わる理論研究 .....	5
市民立法とは（定義）    提案形式の観点から	
3 市民立法に係る事例研究 .....	11
市民立法との関連で論じられた法律    先行研究の概要    本書における事例研究の意義	
4 本書の構成 .....	17
<b>第1章 市民立法の動向 ▶国会審議の場から</b> .....	23
1 議員立法の実態分析 .....	23
全体的な動向（総数）    提出者別の動向    超党派立法の動向	
委員長提案の動向    野党提案の動向    提出者別の動向から	
2 市民立法の今後 .....	30
3 小 括（次章に向けて） .....	33
<b>第2章 児童虐待防止法の立法過程</b> .....	37
▶唱道連携フレームワークからの分析	
1 問題の設定 .....	37
方 法    意 義	
2 法律制定の経緯 .....	39
2000年の制定まで（第1期）    2004年第1次改正まで（第2期）	
2007年第2次改正および関連法の整備まで（第3期）	
3 唱道連携フレームワークに基づく分析 .....	47
唱道連携フレームワークの枠組み    唱道連携フレームワークに基づく因子の抽出	

4	立法を推進した因子の抽出	57
5	他の立法に示唆される事項	58
6	小 括	60
<b>第3章</b>	<b>性同一性障害者特例法の立法過程</b>	<b>63</b>
	▶政策起業家の輩出条件から	
1	目的、方法	63
2	法律制定の経緯	65
3	立法過程の分析	69
	立法過程のアクター 立法過程の流れ 政策起業家の特定 政策起業家の行動	
4	法制化の要因	75
	議員の投票行動 支持者との関係	
5	小 括	79
<b>第4章</b>	<b>発達障害者支援法の立法過程</b>	<b>83</b>
	▶市民の役割と影響力の観点から	
1	はじめに	83
2	発達障害者支援法の制定経緯	85
	アクターの概要 制定までの経緯	
3	発達障害者支援法の制定因子	90
	問題の認知 政治過程 政策案	
4	発達障害者支援法制定の要因分析	94
	政治的要因 政策案 市民の役割 市民の影響力	
5	今後の課題	99
6	小 括	100
<b>第5章</b>	<b>自殺対策基本法の立法過程 ▶政策の窓モデルによる分析</b>	<b>103</b>
1	はじめに	103
	問題の所在 方法	

2	制定までの経緯	105
3	法制化の要因	108
	モデルに係わる因子    政策の窓モデルからの分析    市民の役割 市民立法における政策起業家	
4	小 括	119
<b>第6章</b>	<b>風営法改正(ダンス規制緩和)の立法過程</b>	<b>121</b>
	▶多元主義アプローチによる分析	
1	はじめに	121
	本章の目的    本章の方法    本章の意義	
2	多元主義アプローチの視角	124
	多元主義アプローチとは    日本における多元主義アプローチ	
3	風営法改正の立法過程	127
	法律改正の必要性    改正までの経緯    改正内容	
4	立法過程の分析	146
	アクター間の相互作用    多元化に係わる要素の抽出	
5	風営法改正の要因	149
6	小 括	151
<b>終章</b>	<b>市民立法を進める要因</b>	<b>155</b>
1	外部環境	155
2	直接性から	158
3	アクターに係るもの	160
	政治家とのネットワークの形成    専門家の存在    独自情報の発信 世論の支持の獲得    公益的な争点の設定    アドボカシー活動の継続	
4	最後に(残された課題)	162
	参考文献	
	あとがき	
	索引	